

2023.11.16 資料

(復習)

●原型 (本書 p.132 より)

prototype とは、人がそれにそって自分自身を鋳型にはめようとする、人物像や概念のこと。その人の目の前にあって、自分もそのようになることに価値がある、と、その人が思うようなもの。ある人がナポレオンのようになりたいと思うならば、ナポレオンがその人の原型、モデルということになる。原型は目標から選ばれ、自分が決して人に凌駕されないような場所の、究極的なイメージの表れである。ある人が、子供時代には消防士に憧れ、大人になると学校の校長になりたいと思ったとしても、パターンと原型は変わっていない。(中略) 子供は、のちに自分が変化し、銀行員あるいは権力を有するそれに似た何かになる、ということを知らない。(しかし) 権力を持つ、人々に指令を与える人になるという原型は不変なのである。

●Pattern of Life と Style of Life 2023.3 大竹さんの資料

Pattern of Life p107 (2021.12 粟飯原さん担当部分) 原註 3

…アドラーの著作の中には、この(「人生のパターン」と「ライフスタイル」の)区別が推測できるものがある。「誰もが自分自身と人生の問題についての『考え』を持っており、それは人生のパターンであり、運動の法則であり、本人が理解していなくてもしっかりと掴んでいるのである」(Adler, 1933)。また、アドラーは「性格的特徴は、その人の動線の外側の形にすぎない。そのため、環境、仲間、コミュニティ、人生の問題に対するその人の態度を理解することができる。それは自己主張のための手段を示す現象である。それらは生き方の方法を形成するために結合する装置である」(Ansbacher, 219). と強調している。

その 25 年後、ジッヒャーは、ライフスタイルと人生のパターンの違いに注目することで、アドラーの説明から推測されることを具体化した。彼女にとって、パターンは内的な出来事であり、アドラーの運動の法則の概念に対応するものである。ライフスタイルは観察可能であり、各個人が自分の目標に到達するために使用する方法を表している。

●tendentious 偏向した、偏った

- Merriam Webster: (disapproving) marked by a tendency in favor of a particular point of view : BIASED
- Collins : Something that is tendentious expresses a particular opinion or point of view very strongly, especially one that many people disagree with.

●tendentious apperception という用語がでてくる文献

- IPAA p.196 1 か所のみ ; Superiority and Social Interest なし ; アドラー心理学の基礎 なし ; The Lexicon of Adlerian Psychology なし ; 補正項 なし
- Google Scholar で「"tendentious apperception" AND Adler」で検索 : 23 件 (cf. 「"biased apperception" AND Adler」: 108 件)

●本書

- p.146 *Sicher's Tendentious Apperception* ジッヒャーの偏向した統覚

Ask yourself, "What is the first thing that I see when I go into a garden?" The first thing that I see are the weeds, not the flowers. Why? Because professionally I am so accustomed to seeing what is wrong with something that I have to force myself to see what is right with something. As a child, because of my own tendentious apperception, I found everything wrong with my surrounding, and thought that I was right. I have since learned differently. But as a child I had the impression that only I was right and everyone did me dirt. In a different manner, I still see the weeds, I am very good at it. So if you have a garden that needs some weeding, please ask me.

「庭園に入って行って初めに自分の目に入るものは何か」と自問してみてください。私が最初に見るのは、花ではなく雑草です。なぜでしょう。それは、私が職業上、物事の何が間違っているかを見ることに

慣れていて、物事の何が正しいかを見るためには、努力を要するからです。子供の頃、私は自分の偏向した統覚のため、周りの悪いところを全て見つけ、自分は正しいのだと思っていました。その後、違うふうに学びましたが。しかし、子供の頃は、自分は正しく、みんなは私に悪さをする、という印象を持っていました。今も、違った形ではありますが、私は雑草を見ますし、それがとても上手です。ですから、もし草取りが必要な庭を持っておられるなら、私に頼んでください。

・ p.73 The tendentious apperception is the willingness, after the style of life has developed, to take out of life that which justifies, trains, fits, or increases their beliefs.

偏向した統覚とは、ライフスタイルの発達後、自分の信念を正当化し、訓練し、信念とよく適合し、信念を増大させるものを、人生から取り出そうとする姿勢のことである。

・ Appendix p.553 Tendentious Apperception

The purposeful (usually out of awareness) selection or distortion of experiences according to their usefulness for the training of, or that which suits, the style of life.

ライフスタイルの訓練のための有用性、あるいはライフスタイルに適合するものによって行われる、目的を持った（通常無意識的な）経験の選択または歪曲

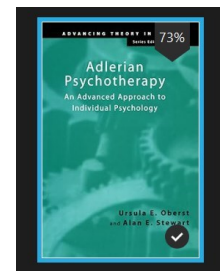
● Adlerian Psychotherapy -An Advanced Approach to Individual psychology (Ursula, 2003) p.20

The child's Life Style is created at an early age. Traditionally, Adlerians talk about the first 5 to 8 years... And once a specific fiction has become part of the individual's Life Style, a process of selective attention to further experiences takes place: the tendentious apperception.

By this process people – unconsciously but systematically – direct their attention to what they want to perceive, and neglect aspects they want to ignore.

Experiences are perceived in a way that makes them fit more seamlessly into the individual's Life Style....Tendentious apperception is also reflected in the fact that pregnant women may report seeing many more pregnant women in the neighborhood or community than they did before. And seeing what one's Life Style wants to see and hearing what it wants to hear is a psychological mechanism that tends to reinforce Life Style in the line already traced out. Again, this restricts the next possible experiences I have, and my next possible answer. Thus, in the Adlerian view, the unconscious is not made up by 'repressed contents', as in the classical Freudian view, and which have to be kept there safely – the tendentious apperception provides that undesirable contents do not even enter the mind.

子供はライフスタイルは幼少期に創られる。伝統的にアドレリアンは5-8歳と言ってきた。(中略)そして、ひとたび特定のフィクションが個人のライフスタイルの一部になると、さらなる経験に対して選択的に注意を向けるプロセスが始まる。それが偏向した統覚である。このプロセスによって、人間は無意識的に、しかし系統的に—注意を自分がとらえたいものに向け、無視したい側面は無視する。経験は、よりシームレスに個人のライフスタイルに当てはまるようにとらえられる。(中略)(例えば)偏向した統覚は、妊娠した女性が、近所や地域で以前よりたくさん妊婦を見かけるようになったと訴えることがある、という事実にも反映されている。また、自分のライフスタイルが見たがるものを見、聞きたがるものを聞



く、というのは、既に描かれた線のなかでライフスタイルを強化しがちな心理的メカニズムである。ここでも、次に持ちうる経験や、持ちうる答えが影響をうける。このように、アドレリアンの視点では、無意識は古典的フロイト派の視点のように「抑圧された内容」で構成されているわけではなく、そこに安全に保持されなければならないわけでもない—偏向した統覚は、望ましくない内容がそもそも頭に入って来ないよう規定するのである。

## ・ Appendix

### Tendentious apperception

The tendency, according to Adler, that all people have to understand new perceptions or novel experiences in terms of their pre-existing network of meanings. … This term is synonymous with biased apperception. 偏向した統覚：アドラーによれば、新しい知覚や経験を、既に持っている意味のネットワークの視点から理解するために、全ての人々が持つ傾向のこと。(中略) この用語は biased apperception と同義語である。

### ● Apperception という用語について 野田俊作ライブラリ「統合論と仮想論」2008.2.28 後半

…我々は世界を実物と違うように見るんですね。これを認知バイアスという言葉で言っていたんだけど、認知という言葉自体をやめたいので、アドラーが本来使っていた言い方—apperceptive bias、統覚バイアスという言い方に変えようかなと思うんですよ。(中略)(統覚というのは)古い心理学用語なんです。今はもう使わないと思います。apperception っていうんですけど、perception というのは、外側のものを知覚することですね。それに ap という接頭辞がついていて、ap というのは、こちらから向こうへ出かけていくことなんです。だから、光とか音が向こうからやってきて、わーっと意識のぼるんじゃなくて、我々の関心とか興味とかが目とか耳から出て行って、ある所に向かうこと。志向性っていうのかな。そういうのを表す言葉です。それをアドラーが統覚バイアス apperceptive bias といっていたのを、認知論者たちが認知バイアスと言い直したんです。その方が認知心理学の中では座りのいい言い方だからね。でも、やっぱりこれも元に戻そう、と。なんかその、アドラー・ルネッサンスなんですよ。ドライカースとその生徒さんたちの功績は認めます。彼らはアドラー心理学をとっても実用的なものにしてくれたと思うんだけど、ちょっと oversimplify、過度に単純化しすぎたなあ、という反省がありまして。もうちょっとアドラーというのは幅広く奥深いものだろう、と。(中略)アドラー心理学というのは未発掘の鉱山で、発掘されてないところがいっぱいあるんですよ。それをドライカースたちはごくシンプルに、使える部分だけをとりだしちゃったんで、シンプルに使える部分を取り出すのはいいんだけど、まるでそれがアドラー心理学であるかのように思っちゃう人が出て来たと思うんです。それは少し具合悪いかな。我々のためだけじゃなくて、将来のためにね。将来アドラー心理学を学ぶ人たちが誤解をしないように、アドラー心理学の、アドラーが言ったままの言葉で、わりとその、原石のままというかな、あまり精選しないままで残しておく、という部分が、とくに基礎講座理論編という場ではいるだろう、と。